

町産業振興に関する意見交換会 会議録

- ・ 日 時 平成28年12月6日（火）午後4時～6時
 - ・ 場 所 千代田町商工会 2階会議室
 - ・ 出席者 商工会青年部員16名、千代田町議会議長、千代田町議会議員11名、
商工会長（あいさつのみ）、議会事務局2名、商工会青年部事務局
-

1. 開 会 商工会青年部事務局
2. 挨拶 高野商工会長・田熊青年部長・襟川議長
3. 協議事項 座長：田熊青年部長・襟川議長

（1）農商工の振興について（6次産業、農業、観光、買い物弱者など）

買い物弱者対策について

久保田部員：全国的にも問題となっており、千代田町も少子高齢化の影響もあり、課題となっている。そこで議員の皆様より対策等について意見を伺いたい。

高橋副議長：千代田町を見てみると商店の減少、交通の便が悪いなど問題点がある。路線バスはあるが買い物に適しているかということそうではない。路線バスについては様々な意見があげられているが、広域で行っていることでもあり、なかなか進んでいない。デマンドバスも今後必要となってきたのではないかな。

久保田部員：議員の皆様は足を運んでいただいて、実際の買い物弱者の方から意見を伺っていただきたい。そのような意見を聞いたうえで、商工会などと連携し、考えていけたら良いのではないかな。

大谷議員：買い物弱者には2パターンいて、足が悪くて買い物に行けない方、車の運転ができない方がいる。社会福祉協議会と連携することが必要となってくる。しかしいわゆる御用聞きを行うにあたっての問題点として、お金預かるということ、（買い物弱者を）乗せて買い物に行った場合の事故があげられる。これらの課題や他地域を参考にし、早急に対策を練ることが必要である。

千代田町の観光について

原口副部長：千代田町には観光地と呼ばれる場所はない。そのような中でどのようにして町に人を呼ぶのか、意見を伺いたい。

青木議員：観光資源になり得るものとしては利根川があげられる。資金的な問題はあるが以前より川の駅という案を検討・研究している。ただし町として具体的な計画はまだない。ゴミ等の問題もあるが、（観光客が）お金を落としてくれ

るよう、また訪れる・遊びに来る人を増やしていくことを商工会と連携して考えていきたい。

原口副部長：植樹体験ツアーや農業体験ツアーを行うというのはどうか。

柿沼議員：観光地の少なさから今まで（車などで）通り過ぎるだけであることが多いという点で似ている川場村では田園プラザを作り成功した。千代田町でもできるのではないか。そこで植木や農産物、食品加工物を販売することもできる。

原口副部長：自分が所属している植木関係の会でも、銀座のぐんまちゃんちでイベントを行った際に「泥いじりが楽しい」などの意見をいただいている。そういったことも是非検討いただきたい。

小林議員：にぎわいを作り出すために何をすればいいか。農地の貸し出しを行って都会の人に来てもらう、という事例もある。また加速化交付金の関係もあり、川せがきなどにおいても他市町からの来場者が多く見受けられた。植木関係でもどのように活用していくか具体的に検討していかなければならない。

細田議員：千代田町出身の著名人として書家の亀田鵬斎があげられる。全国的にも俳句や川柳を取り扱ったテレビ番組・イベントもあることから、文化という視点で千代田町のPRを行うのはどうか。

高橋議員：今年度千代田町では新たなものも含めて様々なイベントが行われてきたが、まずは地元が盛り上がりなければ人は呼べないのではないかな。地元の人間からの口コミこそ集客効果がある。その一つとしてレガッタ大会がある。何十年と行っているにもかかわらず関係者だけしか知らない。どこでもできるイベントではないのだから、町民全員で盛り上げられるイベントにしていきたい。

金子部員：青木議員からもあったが、利根川の観光について具体的にお伺いしたい。

襟川議長：基本的には何をやっても良いが、国交省などからはお金は出ない。予算等の課題はあるが、河川敷の整備を行うことでレガッタ・ボート大会を集客性のあるイベントとすることができるのではないかな。

細田議員：河川敷・土手の活用方法として、5～10kmにわたり植木や桜を植えることで観光地化が行えるのではないかな、という考えがあるが、予算的にはどれほどかかるのだろうか。

田熊部長：剪定費用、消毒費用などがかかってくると思われる。マリンスポーツ利用者から費用負担を求めることで、町の負担を減らすことができるのではないだろうか。

川田議員：千代田町としての特徴を出していかなければ、人は集まってこない。いきなり全部ではなくできるところから取り組んでいき、行政に頼り切るのではなく、自分たちで考え、取り組んでいくことが必要。

畑中部員：様々な課題はあるが、観光地を作るんだという盛り上がり、住民意識が何より重要である。青年部としても部長をはじめ盛り上がりの創出のために活動し

ていきたい。

農業、6次産業について

斉藤副部長：これからの農家は作るだけではなく販売もしていかなければならない。ではどのような方に食べてもらいたいのかについて、学校給食において千代田町の将来を担う子供たちに、自分たちの作った作物を食べてもらいたいという考えがある。千代田町にも農家が増えてきたこともあり、協力しあうことで地産地消を生み出すことはできないか。現状も含めてお伺いしたい。

酒巻議員：現在千代田町の学校給食では、地元の食材が15.5%使われている。県の目標としては30%が掲げられる。栽培方法を工夫することで達成できるのではないか。また6次産業という話もあるが、千代田町としてブランド化も考えていきたい。

斉藤副部長：米においては給食センターで一括して炊かれているため、千代田で作られた米が直接子供たちに届けられるような仕組みが作れないか、という考えがある。また明和町ではその日の給食がSNSにアップされている。父親としての視点からも安心化があり、またSNSということですぐにでも取り組めることであるため、千代田町でも是非取り組んでいただきたい。

川田議員：給食での地元食材の使用状況については確認していく。

酒巻議員：補足ではあるが、米については千代田町産のものが100%使用されている。

襟川議長：町や給食センターからも農家へ働きかけはあるが、コストや手間（食材を洗った状態で提供するなど）の関係でやりきれない状況もある。町からの補助金で援助していくことも必要。

田熊部長：襟川議長からもあったように、農家の方でも地産地消に向け取り組むべき点もあり、双方が歩み寄る必要もある。

柿沼議員：学校給食に関する団体は現状ない。行政との連携をはかり意見交換ができればより良いものになるのでは。

橋本議員：農業ということで、例えば斉藤副部長が作られているいちごを使った加工物、6次産業化した商品を産業祭などのイベントで試験的に販売するのはどうか。

田熊部長：先日行われた県青連のグルメグランプリでは、県内各商工会青年部が県産食材を用いたオリジナルメニューを販売している。今回で5回目であったが、やはり食べ物には集客効果がある。今年度は本日出席しているおたふく食堂に協力いただいたが、橋本議員からもあったように農家だけではなく飲食店とも協力しあうことで、新しいものを提案していければと考えている。

坂本部長：新規就農して4年目であるが、補助金事業などが役場に足を運んで詳しく聞かなければ分からない、または就農後何年間であれば使える、といったものが多い。そういった部分をこれから新規就農する方に分かりやすく提示でき

るものはないか。

柿沼議員：分かりやすい政策一覧のようなものが提示できるよう、町にも働きかけていきたい。また PR の方法についても検討していきたい。

（２）町の将来について（少子高齢化や今後の方向性など）

関口部員：東部地域の人間が少ないという現状がある。大型商業地や新興住宅などができ変わってきてはいるが、住んでいる人やその数はあまり変わっておらず、少子高齢化が進んでいる。対策や考えをお伺いしたい。

柿沼議員：人口を増やしていかなければ町の発展はない。住居や居住者、転入者などへの補助金は総合戦略に組み込まれている。それだけではなく工業団地への誘致などによる雇用の創出を行い転入者、定住者を増やしていかなければならない。

関口部員：子育て世代の人口を増やして子供を増やすことが少子化の対策にはなる。しかし、工業団地を作って移住者を増やしていくことも必要ではあるが、実現には時間がかかり、即効性はない。例えば近隣の町にある企業に勤める方のベッドタウンとして千代田町が選ばれるためにできることはないか。

橋本議員：国道・鉄道がないなどデメリットと思える点もあるが、反面土地が安いなどのメリットもある。青年部員も含め、皆さんが PR することで変わっていく部分もある。

小林議員：第３子以降医療費・授業料無料など他町以上に制度は整っている部分もある。どこか一つにフォーカスを当てて町の PR ができる動画を製作することも一つの手段ではないか。

田熊部長：周りの市町村と比べ、出産祝い金が千代田町だけないように思える。

柿沼議員：お金を上げるような制度はないが、環境整備に関する制度は存在する。

田熊部長：現在ではネットでいくらでも調べられる時代であるため、例えば千代田町や周りの市町村のどこかに定住を考えている方から見れば、祝い金がないというだけで千代田町が選ばれない可能性が非常に高い。足並みをそろえることも必要なのでは。

酒巻議員：自分が子育てをしていく中で、一人目は大泉であったこともあり、千代田町との差を感じた部分もある。また大泉では子育てハンドブックというものを発行しており、子育てに役立つ制度や情報が分かりやすく記載されている。先ほどの坂本部員の話にもあったように、見える化が必要である。

（３）今後のまちづくりにおける若者（後継者）の育成など

田熊部長：議員の皆様はそれぞれの地区の代表、リーダーという形でまちづくりを頑張っている。そこで青年部員が今後まちづくりのリーダーとなって

いくためにどのようなことを目指し、目標としていけば良いのか伺いたい。

大澤議員：自分の所属していた商工会とは別の団体でリーダーとなるための勉強はしてきたが、自分一人ではできることは少なく、周りを巻き込んでいくことが必要。またガーデンスピリッツでは小学生に対して緑育事業を行っている。そのような活動を通して子供たちに「千代田町はいいところだ」と感じてもらえればと思っている。

酒巻議員：人と人にやさしい町ということ、周りの環境は時代と共に変わっていくものであるが、やはり人を育てるのは人である。一人の百歩より百人の一步ということで、自分や周りの誰かではなく全員で取り組んでいくことが郷土愛を育むことにつながると考えている。

橋本議員：中学校で現在、先にあいさつをする、という運動を行っているが、立派な大人になるということはそういうことである。また町と協力することも一つだが、民間企業で例えば利根川付近に川の駅やマリンスポーツ関連の店を作ってしまうことも一つの手段であると思う。

大谷議員：損得勘定で考えると議員活動を行うことより自分の仕事をしている方が得である。定数削減などで議員一人当たりの仕事量が増えていることもあり、そのような損得勘定ではなく、純粋にまちづくりをしていきたいという方ではなければならない。そのような部分を含めた心構えが必要である。

森 議員：今回このような機会は初めてということもあり、お互いの自己紹介的な側面が強く、話す内容も漠然としたものが多い。今回をきっかけとし、今日話した様々な課題を細かく見ていき、実行に向けての話し合いをしていければと思う。

小林議員：イベントの活性化、そして町民の参加を促していくにあたり、大谷議員からもあったが、自分より町のためにと考える人を増やす。そのような人材育成をしていかなければならない。また人口減少対策として、例えば農地が活かされていないことを踏まえ、若者の新規就農を支援し、定住化へ向けた人材育成・支援を行うことが必要である。

柿沼議員：観光協会を立ち上げ、川の駅等の設立に向け働きかけていきたい。これにより雇用の創出にもつながり、労働人口の増加も図ることで町活性化の起爆剤としたい。その中心となるのが商工会青年部であると考えているので、是非頑張ってください。

細田議員：青年部員がそれぞれの分野において一生懸命取り組み、その姿を見せることが後継者育成の第一歩である。

青木議員：自分の子供に後継者となってもらうためには、親が子供のいる前で家業の愚痴を言わないことが重要である。もちろん現実はずらいこと、うまくいかないことも多いが弱気の部分は見せないことが持論である。また工業について

は取引先とうまくやることがすべてであるが、商業については不特定多数を相手にするため、商工会全体で取り組んでいただきたい。いずれにせよこれからの中心は青年部世代であり、町・人を動かしていく存在である。その青年部員が千代田町は良い町だと思い、伝えていってほしい。

川田議員：本人がやる気にならないと育っていかない。日進月歩変化していく中で若い人が中心になっていく中で、青年部などで切磋琢磨していくことで成長できる部分は大きくある。青年部の活躍が町の将来につながると思っている。

高橋副議長：やりたくない人にやらせてもその人は伸びない。青年部の方のように町のためにと真剣な方と今回のような場で話すことは大事。あるものに対してみんなで突き進むことが一つ大事なことであるので、是非頑張ってください。

襟川議長：青年部を見ていると地域のリーダーとなるべき人間だと感じている。そのためにはいろいろな経験が大事になっていく。役を任されたのだとしたら嫌がらずに全うし、また自分から率先して取り組んでいく経験が活きてくる。是非いろいろなことにチャレンジしていただきたい。

田熊部長：部員も勉強してきていること、話したりたいことが多くあると思う。またこのような場を設け、町のためにつなげていきたい。

4. 閉 会